

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市富沢児童館
2	指定管理者	特定非営利活動法人仙台YMCA ファミリーセンター
3	指定期間	平成27年4月1日から令和2年3月31日まで
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》41,508人(前年度比113.6%) 平成30年度 36,530人 平成29年度 32,396人 平成28年度 25,646人</p> <p>《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業</p>
5	収支の状況	<p>《費用》 ()は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者に支払った費用 55,202千円 (46,439千円) その他市が負担した費用 0千円 (0千円) <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用料収入 0千円 (0千円) その他収入 0千円 (0千円)
6	利用者の声	<p>《実施状況》 利用者アンケート、地域運営懇談会、児童館利用者座談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。</p>

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、登録児童数が増加傾向にある状況においても、学校との連携・協力関係を大切にしており、登録児童全員のクラス担任と情報共有する場を設けるなど、登録児童一人ひとりを大切にしたきめ細かな支援を心掛けている。小中学生からボランティアを募った「トミザワイレブン」では、実体験を大切にした月1回の野外活動をはじめ、様々な行事の企画運営など幅広く取り組んでおり、その活動を通して自主性や社会性を育てている。	19/19

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター）による自己評価》
<p>「みつかる・つながる・よくなっていく」をスローガンに10年目の運営を行った。富沢西区の開発が更に進み、世帯数の増加は目まぐるしいものだった。安心して子育てが出来る環境にするために地域施設の方々と考えあう一年であった。</p> <p><児童健全育成>中学生利用が定着し、スポーツのみでなく、宿題やボードゲーム等、居場所としての役割を果たすことが出来た。中学校との連携も強まり、不登校児の児童館利用についても情報交換をしている。小中学生ボランティアグループ「トミザワイレブン」は19名の登録があり、野外での活動や河川清掃、おまつり企画等自主的に活動する姿が見られるようになった。</p> <p><子育て家庭支援>乳児専用スペース「BABYちゃお」では、「わらべうたベビーマッサージ」を自由参加で行い、親子で初めて来館するきっかけとなった。講師に保育士を迎え、子育て相談など母親たちの情報交換の場としての位置づけが定着してきている。職員研修にも力を入れ、男性職員向け研修や虐待についての研修など学ぶ機会をもった。職員の意識も高まり、今後も支援の広がりを期待している。</p> <p><地域交流推進>子ども会、2学年行事など出張児童館の依頼を多く受けた。それぞれ150名以上の参加だったが、打合せなどを重ね、レクリエーションや工作等、笑いの絶えない会となった。地域との繋がりが深くなったことを実感できる共催事業となった。富沢幼稚園の母親合唱サークルとクリスマスコンサートを企画した。子育て中に輝く母としての姿を見て、見ている側が元気づけられるとの声を多くいただいた。</p> <p><児童クラブ>登録児童数が増えサテライト室を含め3ヶ所での児童クラブ運営となった。職員配置や小学校との連携、保護者への連絡方法など課題も多く、職員間で何度も話し合いながら環境づくりを行った。小学校全クラスの先生方との情報交換を行い、児童の支援について常に共に考えあう事ができた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>子育て家庭支援では、共働きの多い地域で0歳児の人数も多く、「BABYちゃお」や「うごいちゃお」など年齢や内容に応じた親子遊びの多様なプログラムを設けており、年間を通して多くの乳幼児親子に利用されている。太白区家庭健康課と連携した「赤ちゃんサロン」は、初めての親子も利用しやすい環境を作っており、子育て世帯の交流や育児情報の交換の場となっている。産前産後の育児相談の場である「ふらっとDAY」では、保健師や助産師を講師に招いて発達相談日を設け、子育ての不安を解消できるような場を提供している。また子育て支援クラブは、「もちつき会」や「親子ピクス」など季節の行事や母親のリフレッシュ企画のほか、乳幼児向けの「ちびっこ祭り」などを開催しており、児童館の応援部隊として大きな役割を担うまでになっている。</p> <p>小学生向けの活動では、毎月行事を開催しており、「遊ぶ楽しさ教え隊」や「地球探検隊」では、野外活動をテーマにいろいろな場所に出かけて活動している。子どもが参加しやすい夏季休業中には、水遊び、調理、製作活動などを実施し、子どもの活動の幅を広げている。小学生高学年・中学生対象のボランティアサークル「トミザワイレブン」は、野外活動やボランティア活動等の企画運営に取り組み、子ども達の自主性や社会性を育てている。継続した取組みとして定着が見られ、活動の様子については、野外活動通信、ボランティア通信を毎月発行し、丁寧な情報発信を行っている。</p> <p>中学生向けの活動では、「居場所作り」を大切に中学生タイムを設け、中学生の利用者が増えて滞在時間も長くなっている。不登校の子の参加もあり、学校と協議し受け入れるなど、児童一人ひとりに配慮した丁寧な関わりができています。</p> <p>富沢西区の開発を受けて人口の増加や年齢層が変化している中、各事業の対象や実施方法について、関係機関との連携を深めながら試行錯誤を繰り返し、地域に根差した児童館として定着してきている点が評価できる。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課